

## 委員派遣報告書

総務文教常任委員会の委員派遣調査結果について、会議規則第 101 条の規定により、下記のとおり報告いたします。

平成 27 年 12 月 4 日

養父市議会議長 勝 地 恒 久 様

総務文教常任委員会

委員長 田 中 久 一

### 記

- 1 目 的 小中一貫教育と介護保険予防推進事業についての先進地視察
- 2 派遣場所 福知山市立夜久野学園、箕面市立彩都の丘学園  
三重県いなべ市
- 3 実施日 平成 27 年 11 月 18 日（水）、19 日（木）
- 4 派遣委員 田中久一、勝地貞一、西村禮治、水野雅広、吉井 稔  
北尾行雄、藤原敏憲 以上 7 名
- 5 結果報告

夜久野学園は、地形的には養父市同様各谷筋に生活圏が広がり、177 人の児童生徒中 162 人がバス通学というハンデを抱えている。

地域との協働では、9 年間で全地域を巡る遠足を実施し、ふるさと夜久野を知る取組がある。

学園内に夜久野老人クラブ連合会の事務局を設置し、役員が月、水、金曜日に駐在しているため児童生徒が事務局を訪れ、ふれあいの場にもなっている。

開校当初、職員は戸惑いの連続だったが、段階に応じた学習と生徒指導について研修を繰り返し、課題を共有できるようになった。3 年目になり落ち着いている。

複式学級の人数は京都府教育委員会で文部科学省基準を緩和して対応している。義務教育学校になっても変わらないとしている。

設置条例の上では、夜久野小学校と夜久野中学校で、校長と教頭は学園で一

人ずつ。校章は旧夜久野町章を基調にアレンジし、校歌は夜久野中学校歌を使っている。

P T Aは9学年1組織で、役員は交代しながら務めていただく流れである。地区運動会や祭りには中学生も参加し、教師もそれぞれ分担して運動会に参加している。

彩都の丘学園は開校5年目を迎え、小中一貫教育による成果を見出しつつあるが、年々大幅に増え続ける児童・生徒への対応について、転任してきた職員には大きな戸惑いがあったのではないかと考える。毎年の転任教師数も他校の比ではなかったであろう。小・中学校教師による合同研修を行って情報・方針を共有してきた。異学年交流により、下級生は上級生をあこがれと成長のモデルとしてとらえ、上級生は下級生を思いやり、支援する存在として接している。

保護者には小中一貫教育への期待があった。

不登校は上級生になるほどあり、保健室には数人の児童がいた。

71人で開校した後も毎年倍々ゲームのように児童生徒が増え続け、5年目で学校経営も落ちついたころだが、今後も同様の苦労が伴うのではないだろうか。大都市近郊での小中一貫教育のモデルとなるのではないかと考える。

いなべ市は三重県北端に位置し、東名阪道路開通後は名古屋まで約30分、一般道でも約1時間という交通が便利な地にあるため、従業員4,700名のデンソーなど大手企業が進出した。

平成15年12月、旧員弁郡の4町が合併して市制を施行したが、市役所は旧4町庁舎で業務を行う分庁方式であり、5年後の道路整備に合わせて新築の予定である。

人口は46,074人で高齢化率25.05%。平成37年度の推計人口は約3,000人減で高齢化率28.1%と見込んでいる。北端で岐阜県境の藤原地区は市内でも人口が少なく、高齢化率33.24%と他の3地区とは異なる環境である（平成27年4月1日現在）。

いなべ市で特筆されるのは、介護予防システムで要支援者対策を進め、次に健康維持できそうな人に継続して自活維持できる場所を提供。さらにその中から事業進捗の担い手になる人を育て、活躍の機会を設けていることである。

このように住民を生かす取組はまちづくりの基本であるが、包括的・継続的マネジメントの面で気になるのは、いなべ総合病院との連携という点である。養父市では、医師会や八鹿病院と医療・介護の連携を図り在宅支援を行っている。